

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	東京都立北療育医療センター		
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日	～	令和7年1月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日	～	令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	令和6年11月1日	～	令和7年1月14日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 24
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者のニーズに合わせて多職種(医師・看護師・保育士・PT・OT・ST・公認心理師・管理栄養士)が連携を図りながら支援にあっている。	主治医を含めて各職種が各々の視点で訪問支援実施後に情報共有を行い、当センターでのリハビリや指導にも生かすことができている。	定期的に担当者間で情報共有する場を設け、支援の更なる充実を図っていく。
2	事前行動観察を行い、訪問先施設との情報共有を密に図っているため、実際の訪問支援時にはスムーズに意見交換が行われている。	訪問先施設との関係性が良好なものになるよう、意識的に丁寧な説明と負担にならないような配慮を徹底して行っている。	乳幼児期だけの支援にとどまることなく、児とその家族の将来的なビジョンを見据えて施設側との情報共有を行っていく。
3	訪問支援員は経験年数の長いベテランが多く、様々なニーズや複雑な課題にも柔軟に対応できる。	センター内での外来リハビリ等に支障のないようスケジュールや体制について綿密に計画し、訪問先施設に負担がかからないよう配慮している。	職員の異動等で支援が途切れることのないよう、若手職員にも情報提供を行い、指導育成にも努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	窓口となる職員が兼任のため、日程調整等において柔軟に対応できない。 訪問支援専門員も外来・病棟等との兼任での訪問支援であり、個別支援計画作成にあたっての事前打ち合わせや情報共有に十分な時間の確保ができない。	希望受領後、問題解決のためにはよりスピーディーな対応が求められる事業だが、行事前等はかなりお待たせせざるを得ない状況になっている。	ニーズに迅速に 대응していくため、訪問支援員の確保など、事業運営上の課題について、関係部門と調整していくとともに、運営の工夫など検討していく。
2	訪問支援事業の活動内容や連絡体制等の情報発信が十分とは言えない。	個々のケース対応(報告等)を主体とした活動を行っているため、訪問支援事業に関する情報発信の機会が限られている。	ホームページ等により、当センターが行っている訪問支援事業の内容について、より分かりやすい形での情報提供に努めていく。
3	訪問支援時以外の情報共有や連携が十分に図れていない訪問先施設がある。	訪問先施設の業務の都合もあり、訪問時以外の情報共有の日程調整が難しい。	訪問支援時以外の情報共有のメリットを理解してもらい、当センターから積極的に情報共有する機会を設け、支援の充実を図っていく。